

まえがき

本書の目的は、2020年1月のバイデン政権の発足に象徴されるアメリカの政治的変動と今後の行方について、政権交代とも関わりの深い新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックとその政策的対応を中心に掘り下げて考察し、アメリカの政治経済の現状と今後の行方について考えることである。

バイデン政権をとりまく政治的環境の特徴を一口で言うならば、新型コロナウイルスの落ち着きとともにトランプ政権期に一定みられた超党派的な合意形成が難しくなり、政治的な党派対立がひろく社会をも巻き込む形で激しくなったことである。ただし、医療政策に関しては、パンデミック以前にみられたACA（オバマケア）の廃止論は後景に退き、バイデン政権のもと、ACAの維持とコロナ後を見据えた医療制度改革が着実に進められている。バイデン政権における医療制度改革としては、インフレ抑制法（IRA）で実現したメディケア薬価制度改革が最も注目されるものの、インフラ投資・雇用法や高額医療費請求禁止法など、超党派的合意に基づく制度改革も看過すべきではない。また、創設当初は大きな反発も惹起したメディケイド拡充に関しても、新型コロナウイルスの感染拡大に前後して、拡充に踏み切る州が増えている。分権的で、政治的・イデオロギー的な対立が深刻なアメリカにおいても、人々の健康や暮らしを支える医療制度は、漸進的に、ときには画期的に、より良い方向に改革されるのだと思う。

本書では、トランプ政権における医療政策とコロナ対策から出発し、2020年大統領選挙から2022年中間選挙に至る2年間のバイデン政権における医療政策を分析し、2024年の大統領選挙を展望する。本書を通じて、新型コロナウイルスで世界でも最も厳しい健康被害に直面したアメリカの医療制度と政策対応を論じることは、同じく新型コロナウイルスに大きく揺さぶられた日本の社会や医療のあり方に関心を抱く読者にとっても、示唆するものがあると期待している。